

平成 27 年度 学校関係者評価報告書



学校法人トヨタ東京整備学園

専門
学校

トヨタ東京自動車大学校

Toyota Technical College Tokyo

1. まえがき

学校法人トヨタ東京整備学園 専門学校トヨタ東京自動車大学校では、平成 25 年 3 月に文部科学省が策定した「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づき、本校全般の運営（経営、教育活動、財務、法令順守、社会貢献等）の現状を自己点検・評価して更なる改善・向上に取り組むとともに、平成 27 年度自己評価報告書に基づき学校運営に関係の深い団体・企業様、保護者の方々のご意見等を幅広くお伺いし、今後の学校運営や教育活動に反映させるべく「学校関係者評価」を実施し、今般、報告書にとりまとめました。学校関係者評価委員の方々のご意見・ご指導を賜りながら、職員が一丸となって改善を図り、教育水準の一層の向上に努めてまいります。

2. 学校関係者評価委員会開催概要

- (1) 日時：平成 28 年 10 月 21 日 13:30～15:00
- (2) 場所： 専門学校トヨタ東京自動車大学校 1号館 123会議室
- (3) 学校関係者評価委員会 評価委員（敬称略）

名 前	所 属	
村上 尚史	トヨタ自動車株式会社 国内サービス部 総括室業務部 係長	委員長
菅野 剛	東京トヨタ自動車株式会社 サービス部 業務室 室長	副委員長
森村 徹	ネッツトヨタ多摩株式会社 お客様関連室 保証ラボGグループリーダー	
中島 慶太郎	東京トヨペット株式会社 カーテラス深川店 サービス工場長	
篠原 智治	横浜トヨペット株式会社 人事部 人事室 個別人事Gグループマネージャー	
愛甲 彰人	館町 自治会長	
安藤 俊明	在学生保護者	

学校側出席者

河本 博司	教育部長
眞田 泰寿	総務部副部長
渡辺 浩	教育部次長
藤川 龍彦	教育部次長
江頭 裕司	総務部

3. 委員会次第

- (1) 開会・河本挨拶
- (2) 学校関係者評価委員会主旨説明
- (3) 自己評価結果の説明・審議
- (4) 意見交換
- (5) まとめ
- (6) 閉会

4. 学校関係者評価委員会の実施方法

学校側より平成 27 年度の自己評価について、自己評価報告書を使用して基準 1～10 まで一項目ずつ達成状況、課題、改善事項等について報告し、各々の項目について評価委員よりご意見を頂いた。

5. 学校関係者評価の結果

・基準 1 教育理念・目的・育成人材像

- ①教育理念・目的・育成人材像等、全てが明確であり、将来的にも業界の中心となる卒業生達を育成する学校に相応しい。
- ②従来の自動車技術に加えて、新たな環境対応車両が今後の自動車の主流になると考えられる現在、整備専門学校で教育すべき内容も電気・電子・通信等の要素が重要性を増す等、これまでに比べて非常に多様化して来ているので、自動車社会のニーズを十分に把握した上で、必要な教育課程、学習内容、教育設備を充実させてもらいたい。

・基準 2 学校運営

- ①学校運営については、自動車整備大学校として、コンプライアンス精神をはじめ、環境配慮に至るまで現代社会が求める学校運営の理想の姿である。また、環境に関しては、学生を含めた「エコアクション 2.1」を取得し、環境意識の高い人材の育成を推進している。
- ②今後の自動車業界の動きは、環境保全、省エネルギーや安全といった分野で人の生活や社会のしくみと連携した技術開発の方向へと進んできているので、知識・技術も社会の流れに対応出来るものにしてもらいたい。

・基準 3 教育活動

- ①『技術を磨け、そして人間性も』のスローガンを掲げ、各科毎の人材育成目標を立てているが、「即戦力」の部分はずっと力を入れ取り組んでももらいたい。
- ②教職員研修では、トヨタ自動車と連携し新技術講習を行っているのは、メーカー校としての優位なものなのでこれからも継続して欲しい。
- ③卒業生が、就職する企業の人材ニーズや世の中の期待する人間像は、時代の流れとともに変化していくため、その傾向を捉え教育活動に柔軟に反映してもらいたい。

・基準 4 学修成果

- ①国家資格取得に関しては、100%近い数値であるが、不合格になった学生に対してのフォローも確実にを行い資格を取らせてもらいたい。
- ②就職内定は、100%である。更に第一希望の会社への内定率を上げる努力をしてもらいたい。また、卒業生の就職先企業へは定期的に訪問をするなど、卒業生評価も行われ教育カリキュラムへのフィードバックも行われている。

・基準5 学生支援

- ①退学は、学校、本人ともに残念であるので、退学率低下策は充分検討されているが、更なる低下の検討をしてもらいたい
- ②留学生に対する指導も確実に行われているが、更に生活指導面も確実に行い留学生受け入れ適正校として認めてもらいたい。
- ③トヨタ関連企業からの奨学金は、学生にとって重要なものであるので、これからも継続的に行ってもらいたい。

・基準6 教育環境

- ①教育環境は、専門学校としては十分な環境と言える。実習場、学科教室も十分な広さを有している。グラウンド、アリーナ(体育館)、テニスコートと運動も十分できる。
- ②校内サーキットでの運転練習は、エンジニアの運転技術不足が、販売店でも問題になっており、学生が就職する企業側からすると重要なことでもあり、車を知る意味から、これからも続けてもらいたい。

・基準7 学生の募集と受入れ

- ①学校運営に直接関わる学生募集活動は、少子化や業界環境等の変化で例年定員を満たすのが厳しい状況になりつつあるが、教職員一丸となつての取組みやトヨタグループ各社の協力も得ながら、日々努力している。
- ②本校での募集活動では、学校評価の一つとなる就職、資格取得等の実績を正確に公表し、入学選考も適正かつ公平な基準に基づき実施している。
- ③今後も自動車業界に不可欠な専門技術を修得した優秀なエンジニアを継続的に輩出するために、サービスエンジニアの魅力が十分に理解されるような広報活動を重視した学生募集活動を展開してもらいたい。

・基準8 財務

- ①土地購入のあった27年度収支はマイナスとなったが、財務基盤は安定している。募集環境の厳しい中、今後更に経費削減を実施し、メリハリのある予算とその執行を継続してほしい。
- ②理事会、評議員会では適切に資料公開と承認がなされている。
- ③公認会計士の監査も実施されており、適切に運営されている。
- ④財務情報は学校ホームページに公開されており、誰でもが確認できている。

・基準9 法令等の遵守

- ①国土交通省、文部科学省等の関係法令や設置基準に基づいて適正に周知ならびに遵守されているので、今後一層強化してほしい。
- ②個人情報保護については、特定個人情報の管理にむけて一層セキュリティを強化してほしい。
- ③自己点検、学校関係者による評価は適切にホームページで公開されている。

・基準10 社会貢献・地域貢献

- ①近隣の小中学生の職業理解活動に対する協力、八王子市からの施設設備の見学依頼は、これからも続けてもらいたい。
- ②近隣中学校での朝学習ボランティアは、学生のコミュニケーション能力向上にも役にたっているのでこれからも続けてもらいたい。
- ③地域の清掃活動や防災活動への参加、八王子市主催のイベント・ボランティア活動への参加、近隣地域の祭礼への協力等、教員・学生が地域と共生共存するために社会貢献に努めて欲しい。

総 評

高等教育機関として自動車整備士の養成に向け、学校の教育理念に基づく育成すべき整備士像を見据えた教育を職員と一体になって実施している。

また、企業と連携し社会のニーズにあった教育編成を実施している。

基礎学力の低下に対するの対策、コミュニケーション能力の向上と自動車整備以外の指導も行われている。

学生募集に関しては、少子化や業界環境等の変化で定員を満たすのが厳しい状況ではあるが、自動車業界に不可欠な専門技術を習得したエンジニアを輩出するために、サービスエンジニアの魅力が十分理解される広報活動を重視し学生募集を展開してもらいたい。

基準1～10の全ての項目について基準を満たしている。

以上